

令和6年度小学校教科教育推進研修（国語科）研修成果物（指導について）

指導者 Aグループ 三原市立南小学校 尾崎 詩織
指導学年 第1学年1組 29名

1 単元名及び教材名

はっけん！ 大かつやくの のりものずかん
「いろいろなふね」（東京書籍「新編 あたらしいこくご 一下」）

2 児童観

本学級の児童は、読書活動において文章を読み内容を楽しむことができる児童が64%である。一方で、声に出して文章を読んだり、絵だけを楽しんだりしている児童は17%である。逐次読みであることから、学習したばかりのひらがなを確認することに留まっていたり、絵のみを確認していたりと、叙述に即して内容を読み取ることができていない。

1学期の説明的な文章「どうやってみをまもるのかな」においては、文章のまとまりごとに内容を読み取り、本文中の問いに沿って答えとなる文を抜き出す学習を行っている。その中で、文章のまとまりごとに内容を読み取るために、挿絵に注目して想像を広げたり、動作化を行ったりする活動を取り入れた。逐次読みの児童が17%いることから、挿絵を活用したり、経験と結び付けたり、動作化を行ったりすることで想像を広げ、理解を深めていく活動は有効であったと考える。

また、学習の振り返りを行った際には、分かった事柄のみを記載したり、「楽しい」「うれしい」といった感情のみを記載したりする児童が多いことが課題として挙げられる。これらは語彙が少ないことをはじめ、分かったことと自分の思いを結び付けて具体的に述べる力がついていないことが原因であると考えられる。

以上の課題から、想像したことを叙述と結び付け、理解を深めていくための手立てを講じる必要がある。

3 指導観

指導に当たっては、9月上旬に社会見学で大型バスに乗った経験と結び付け、学習を進めていきたい。社会見学の写真を用いて、児童が知らなかった乗り物の構造に着目させる。児童が意欲的に調べ学習に取り組む中で、情報と情報を結び付け、理解を深めることができるように「はっけん！大かつやくの のりものずかん」を作る活動を設定する。

単元の導入では説明的な文章の「考え聞かせ」を行う。絵や写真から読み取ることができる情報を体験や経験をもとに児童から引き出し、語句の獲得を図る。それとともに、読み取った情報と叙述を関連付けることで、興味・関心を高めながら本を楽しみ、本の読み方を学ぶことができるようにする。また、乗り物に関する並行読書を行うことができるように、教室に本や図鑑を設置する。これにより、児童が意欲的に読書を行い、学習に臨むことができる環境を整えていく。

教材文においても「考え聞かせ」と同様の読み方を行う。また、写真から児童の既知の知識や経験を想起させながら文章を読み進め、身近な乗り物と比べたり、自分の知識や経験を結び付けたりすることで、説明されている「やく目」と「つくり」の関係について、興味関心をもちながら内容を理解することができるようにしていく。その際、船の内部の写真を補足資料として用意しておくことで、児童が4つの船の構造を想像し、経験や知識と結び付けていくことができるようにする。また、文や文章を意味のまとまりとして捉えることができるようにするために、叙述を視写する活動を行っていく。それを活用して、「やくめ」と「つくり」をそれぞれ色分けしたり、「やく目」と「つくり」を接続詞「だから」を用いてつなげたりしていくことで、それぞれの船はやく目に合うつくりになっているという関係性を視覚的に捉えさせていく。

これらの学習を生かし、言語活動として「はっけん！大かつやくの のりものずかん」を作成する。作成に当たって、教材文を通して学んだ読み方を生かし、児童が選んだ乗り物のやく目、それに合ったつくりを見つけられるようにする。選んだ車の「やく目」と「つくり」を接続詞でつなげ、声に出して確認したり、友達と読み合ったりする中で、やく目とつくりの関係を整理させていきたい。また、自分が選んだ乗り物についての理解を深めるために、自分の体験や経験と結び付け、解釈する活動を取り入れる。児童それぞれが選んだ乗り物について説明した文章を解釈することができるように、児童の経験と比較しやすく、かつ、役割やつくりが想像しやすい身近な乗り物を題材として選択させたい。写真から役割やつくりを推測したり、児童の乗り物に対する知識や経験を

引き出したりして、選んだ乗り物と、自分の経験との相違点を比べ、調べた内容と結び付けていくことで、児童それぞれが選んだ文章に対する解釈を深められるようにする。

4 指導と評価の計画（全 14 時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・評価方法 等
一	1	乗り物を題材とした本の「考え聞かせ」を聞くことを通して、「はっけん！大かつやくの のりものずかん」を作るという学習の見通しをもつ。				
	2	身近な乗り物や好きな乗り物、これまでの経験を話し合う中で、「はっけん！大かつやくの のりものずかん」を作るための意欲を高める。				
二	3	教材文を読み、構造を整理する。 ・①はじめ ②③④きやくせん ⑤⑥⑦フェリーボート ⑧⑨⑩ぎょせん ⑪⑫⑬しょうぼうてい ⑭おわり ○「中」には全部で4つの船が紹介されている。 ○「おわり」から、船のやく目とつくりの説明がされていることを確認する。				
	4	「きやくせん」を読み、カードを作る。 ○「ためのふねです」と「あります」という文型に着目させる。 ○叙述と写真から読み取ったことを基に、解釈を深める。 ○「やく目」を赤、「つくり」を青で色分けしていくことで、書かれている事柄を視覚的に捉えさせる。 ・やく目……たくさんの人を運ぶ。 ・つくり①…客室や食堂がある。 ・つくり②…人は客室で休んだり、食事をしたりできる。 ・解釈例……だから、たくさんの人を遠くまで運ぶことができる。	○			〔知識・技能①〕 <u>ワークシート</u> ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。
	5	「フェリーボート」を読み、カードを作る。 ・やく目……たくさんの人と、車を運ぶ。 ・つくり①…客室や車をとめておくところがある。 ・つくり②…人は船を車に入れてから、客室で休む。 ・解釈例……だから、車の運転手は客室で休みながら自分の車で遠くまで行くことができる。				

6	「ぎょせん」を読み、カードを作る。 ・やく目……魚をとる。 ・つくり①…魚の群れを見つける機械や、網を積んでいる。 ・つくり②…見つけた魚を網でとる。 ・解釈例……だから、たくさんの魚を捕ることができる。				
7	「しょうぼうてい」を読み、カードを作る。 ・やく目……船の火事を消す。 ・つくり①…ポンプやホースを積んでいる。 ・つくり②…火事があると、水や葉をかけて、火を消す。 ・解釈例……だから、消防自動車と同じやく目をする船なので、海で火事になっても火を消すことができる。				
8	社会見学のバスを基に、全体でカードを作成する。 ○写真や児童の体験から、「やく目」と「つくり」を確認する。 ○「やく目」を赤、「つくり」を青で色分けしていくことで、書かれている事柄を視覚的に捉えさせる。 ○接続詞「だから」を使って「やく目」「つくり」のつながりを確認し、事柄の順序や情報の関係を意識させる。				
9	「はっけん！ 大かつやくの のりものずかん」で紹介したい乗り物を探す。				
10	情報を読み取る。 ○写真や叙述から、「やく目」と「つくり」を確認する。 ○「やく目」を赤、「つくり」を青で色分けしていくことで、書かれている事柄を視覚的に捉えさせる ○ペア学習において、接続詞「だから」で「やく目」と「つくり」をつなげ、事柄の順序や情報の関係を確認する。		○		〔思考・判断・表現①〕 ワークシート ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。
11 (本時)	自分の知識や経験と結び付けて、解釈を深め、感想をもつ。 ○自分の身近な乗り物の「やく目」や「つくり」と比べることで、調べた乗り物の活躍している部分を見つける。		○		〔思考・判断・表現②〕 ワークシート ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもっている。
12	「はっけん！ 大かつやくの のりものずかん」を完成させる。 ○ペアで確認する活動を通して、ずかんに書いた内容を交流する。			○	〔主体的に学習に取り組む態度①〕 児童の様子 ・進んで、文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもち、今までの学習を生かして、考えたことを「のりものずかん」にまとめようとしている。

	13	「はっけん！ 大かつやくの のりものずかん」を紹介し合う。 ○友達の様子物の活躍部分を見つけてカードに書き、交流する。				
三	14	学習を振り返る。 ○「はっけん！ 大かつやくの のりものずかん」の最後に学習の振り返りを記入する。				

5 本時の学習

(1) 本時の目標

自分の身近な乗り物と調べた乗り物の「やく目」や「つくり」と比べることを通して、調べた乗り物の活躍している部分を見つけて解釈を深め、感想をもつことができる。

(2) 学習の展開

学習活動	○指導上の留意点 □主な発問 ・予想される児童の反応 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
1 これまでの学習を振り返る。	○掲示物やカードを基に、「やく目」と「つくり」を見つけるときの観点を確認する。 ○接続詞「だから」を用いて文のつながりを確認したり、文末表現に着目したりしながら、4つの船や自分が調べた乗り物、身近な乗り物の「やく目」と「つくり」を確認する。 ○くわいずかんにするために、かつやく（解釈）と感想を書くことを確認する。	
2 本時の学習課題を確認する。	○学習計画を基に、本時の学習課題を確認する。	
のりものずかんにかんそうをかこう。	のりものの かつやくしているところを見つけて かんそうをずかんにかこう。	
3 社会見学のバスの活躍している部分を確認する。	○第8時で作成した社会見学のバスカードを確認することで、カード作成の見通しをもつことができるようにする。	
4 調べた乗り物の活躍している部分を見つける。	□自分がまとめた「やく目」と「つくり」を読みましょう。 □調べた乗り物のとくにすごいところはどこかな。「かつやく」に書きましょう。 ○前時にノートにメモしたすごい所を確認し、ワークシートに記入する。 □「やく目」と「つくり」と「活躍しているところ」を「だから」でつないで読んでみましょう。 ◆接続詞「だから」を使って「やく目」と「つくり」と「活躍しているところ（気づき）」をつなげて音読する活動をペアで行う。これにより、文のつながりを確認することができるようにする。	
□「感想」は「活躍」とつなげて書くことができるように、「だから」でつなげさせる。		
5 乗り物の活躍している部分を交流し、ワークシートにまとめる。	□友達の前乗り物のすごいところはどこかな。 ・自分の家の車は5人乗りだけど、路線バスは椅子がたくさんあるから、たくさんの人が乗れるよ。 ・シートベルトはないけど、つり革や手すりがあるから、立っている人も乗れるね。 ○写真を基にペアで話し合う活動を設けることで、体験や知識と結び付けて理解を深めることができるようにする。 ○友達の解釈を聞くことで、感想を書く手立てとなるようにする。	
○似たような乗り物を選んだ児童同士で伝え合い活動を行う。		
6 感想を書く。	□のりものについてたくさん調べて考えたことで、図鑑を書く前よりもっとすごいと感じたところはあるかな。 ○乗り物を選んだきっかけ（ノート）とまとめたワークシートを比べることで、感想をもたせる。	ワークシート ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもっている。

※吹き出しは授業後に改善点として加筆したもの。

(3) 板書計画

はっけん！ 大かつやくの りものずかん

か
のりものの かつやくしているところを 見つけて
かんそうを かこう。

観光バスの写真

のりものずかん	なまえ（	）
のりもの		
かんこうバス		
やく目		
こうそくどうろを はしつて りようしたり、かんこうを まわったりします。		
つくり		
ざせきが たくさんあって、 大きなまどが ついています。		
かつやく		
わたしの いえの 車は、五人のりで、 かぞく みんなが いきたいところは こんでくれます。		
だけど、バスは たくさんのが あって いろんな人でも あんぜんに のることが できます。		
かんそう		
だから、たくさんのが けしきを たのしみながら りように いくことが できます。		
わたしは、たくさんのが たのしく かつやくが すこいとおもいました。 ほかの バスの つくりも みてみたいです。		

やくめ

こうそくどうろを はしつて りよう したり、 かんこうを まわったりします。

つくり

だから、ざせきが たくさんあって、 大きなまどがついています。

かつやく

だから、

かんそう

6 指導の実際

(1) 指導上の工夫

第1時 考える視点を与える「考え聞かせ」

科学読み物を中心に考え聞かせを行った。その際、

- ・絵や写真を見て情報を引き出すこと
- ・叙述から情報を引き出すこと
- ・自分の経験と結び付けて想像を広げること

の3点を意識した。

そのために、着目させたい点には「何がいる？何がある？」と問いかけることで絵や写真を詳しく見ること、「何で分かったの？」と問うことで、児童の経験や知識を引き出し、相互に交流することができるようにした。さらに、「本当にそうかな？」と投げかけることで、叙述に着目させた。これらを通して、児童の考えを交流し、知識や経験を共有するとともに、本を読む際には、「絵や写真を見る」「叙述を読む」「自分の知識や経験と関連付けて想像を広げ、理解を深める」ことが大切であることの価値付けを行った。

第2時 自分事として取り組むことのできる学習計画

様々な科学読み物の考え聞かせを行う中で、児童の中から自分たちも「図鑑」を作って詳しく説明をしてみたいという声があがった。そこで、社会見学に行く際に乗る「大型バス」について詳しく説明をしようという課題を共有した。また、図鑑にするために、大型バス以外にも自分のお気に入りの乗り物について調べて説明することで「はっけん！ 大かつやくの のりものずかん」をつくらうという単元のゴールを設定した。その際、5年生が社会科で「自動車をつくる工業」の学習をしていることから、「はっけん！ 大かつやくの のりものずかん」を5年生に紹介しようという目的をもつことで、学習についての意欲を高めるとともに、学習の必然性をもたせた。



自分とバスの大きさを比べる

第3～7時 事柄の順序及び情報と情報との関係を捉える学習

教材文の初読の際には形式段落の確認を行った。1段落は話題提示（はじめ）、14段落はまとめ（おわり）であること、また、それぞれの船は全部で3つの段落で説明されていること、説明に合った写真を掲載していることを写真や音読を通して確認した。そして、「いろいろなふね」で紹介されている4つの船についてもまとめていくことで、図鑑の1ページとしていくこととした。

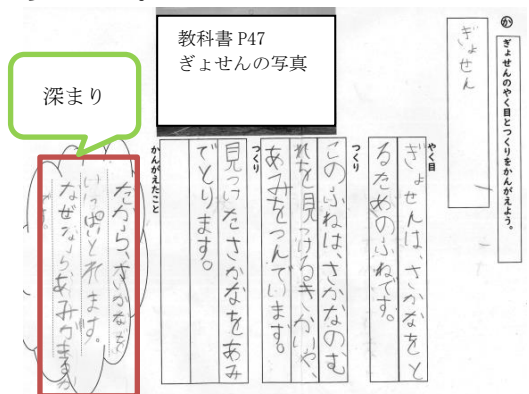
図鑑の1ページにするためには詳しく理解する必要があることを押さえ、④～⑦時では考え聞かせの際の読み方を基に読み取りを行った。写真を詳しく観察することでわかることや、児童の既存の知識や経験を引き出した。これと叙述を読むことで、内容の理解を深めることができた。

「客船」の読み取りに当たっては、写真から船の大きさや乗船人数を想像し、叙述を読み取る際には、児童の生活経験を想起させた。旅行の経験からホテルと関連付けて考える児童が多く、ホテルと客船の共通点と相違点を考える中で、客船は長期の滞在であっても、景色を楽しみながら移動することもできる素敵な船であると捉えた。

「フェリーボート」の読み取りに当たっては、客船と比べる活動を取り入れ、客船ほどの大きさや滞在時間はないが、自家用車と共に目的地まで運んでくれる船であること、また、その際、運転手は客室で休めることから、優しい船であると捉える児童が多かった。

「漁船」の読み取りに当たっては、写真より、客船やフェリーボートよりもさらに小さい船体であるが、上記の2つの船とは異なり、網や機械を活用して魚をとることができる船であることを捉えた。叙述と関連付けていく中で、これらの網や機械を活用し、大量に魚を捕ることができ、自分たちの生活には欠かせない大切な役割をしている船であると感じた児童が多かった。

「消防艇」の読み取りに当たっては、やはり、「消防艇」という名前、ホースから水を出す赤い船体の写真、そして「火事があると火を消す」という叙述から消防車と関連付ける発言が多く見られた。



これらの学習の中で、音読を繰り返し行う、「やく目」と「つくり」を色分けして線を引く、4つの船の「やく目」と「つくり」を繰り返し読むという活動を繰り返し行う中で、児童は「やく目」は「仕事」と同じ意味、「つくり」は「できること」や「あるもの」を表していると捉えた。どの船も「やく目」「つくり」の順に書かれているという文章構成に着目させることで、叙述の内容を適切に捉えることができた。

また、接続詞「だから」を用いて先行文と後行文の関係を明確にした。それぞれの段落の最後に「だから」で自分の解釈及び感想を書くことで、さらに理解を深めることができた。

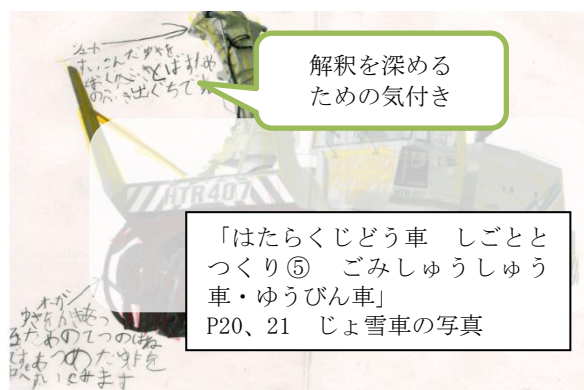
第8時 実体験をもとにしたゴールの明確化

社会見学に行った際の経験と写真を基に、大型バスの図鑑のページを全体で作成した。全員に共通する経験であることから、大型バスで見つけたことや感じたこと、楽しかった思い出を生き生きとした表情で語ることができた。その中で、「バスの高さは自分と比べると二人分以上あった。」や「自分の家の車と違って座席の数が～」といった自分や経験と結び付けたり比較したりする言葉を引き出すことができた。そこから、「いろいろなふね」で学習した観点に応じて、児童の経験を整理し、全体でバスの図鑑を作成した。

第9～13時 文章の内容の正確な理解に基づく考えの形成

まず、「やく目」について興味をもった乗り物を選び、図鑑に書く観点を確認した。児童は、これまでの学習の流れから書くべき内容を的確に捉えることができた。「本」から「やく目」や「つくり」を見つける際には、図鑑の読み方を確認し、「いろいろなふね」同様に、書かれている文章を繰り返し音読する学習を取り入れ、該当部分を色分けしたことで、どの児童もスムーズに抜き書きを行うことができた。

その後、解釈を深め、詳しく説明するために、それぞれの乗り物の「活躍」している部分を考えた。自分の知識や経験と比べることでより納得できる説明となっていることを価値づけ、乗り物の特色や魅力を低学年児童がわかりやすいように「活躍」と言い換え、共通認識した。選んだ乗り物の写真に、気付きを書き込むことで、解釈を深める手立てとした。自分の家の乗り物と比べる児童が大半ではあったが、親の職業で使用されている乗り物や、自分の好きな乗り物と比べる児童もいた。それらの児童は、自分が調べた乗り物だけではなく、比較対象の乗り物の魅力も再発見し、より深い理解を基にした感想を書くことができた。



解釈を深める
ための気付き

「はたらくじどう車 しごとと
つくり⑤ ごみしゅうしゅう
車・ゆうびん車」
P20、21 じょう雪車の写真

また、「だから」でつなぐことで文の関係を明確にした。その際、ペア学習を積極的に取り入れた。文同士の因果関係を確認することはもちろん、自分とは異なる視点を交流することで、解釈や感想をより深めることができた。

(2) 児童のつまずきと実際に講じた手立ての具体

○文章の構造を読み取る際に、「やく目」と「つくり」を適切に抜き出すことが難しい児童

- ①繰り返し音読をし、文章を正確に捉える。その際、段落ごとに音読をすることで、文章のまとまりを捉えさせた。
- ②「きやくせん」「フェリーボート」は全体で確認をし、「やく目」を赤「つくり」を青でサイドラインを引いた。繰り返し行うことで、文章の構成に対する理解を深めることができた。
- ③「やく目」は「仕事」、「つくり」は「できること・あるもの」と児童がイメージしやすい言葉を引き出すことで、「やく目」と「つくり」の意味を定義付けた。
- ④教科書に載っている写真から、分かることや考えたことを共有し、叙述と関連付けた。補助資料として写真を用意し、イメージを豊かにすることで、「やく目」と「つくり」に対する解釈を深めた。
- ⑤「やく目」と「つくり」を接続詞「だから」でつなぐことで、文のつながりを意識させた。その際、ペアで読み合う活動も取り入れた。

○自分の経験や既存の知識と関連付けることが難しい児童

- ①全員が共通してもっている、社会見学で乗った観光バスでの体験を想起させた。その際、気が付

いたことや分かったことなど、児童の思いを交流する中で、友達の思いに共感したり、自分では気付くことができなかった視点を獲得したりすることができた。共通の経験を想起することで、個人での思考の際も、「社会見学の観光バスでは」「自分の家にある車は」と助言し、想像を広げることができた。

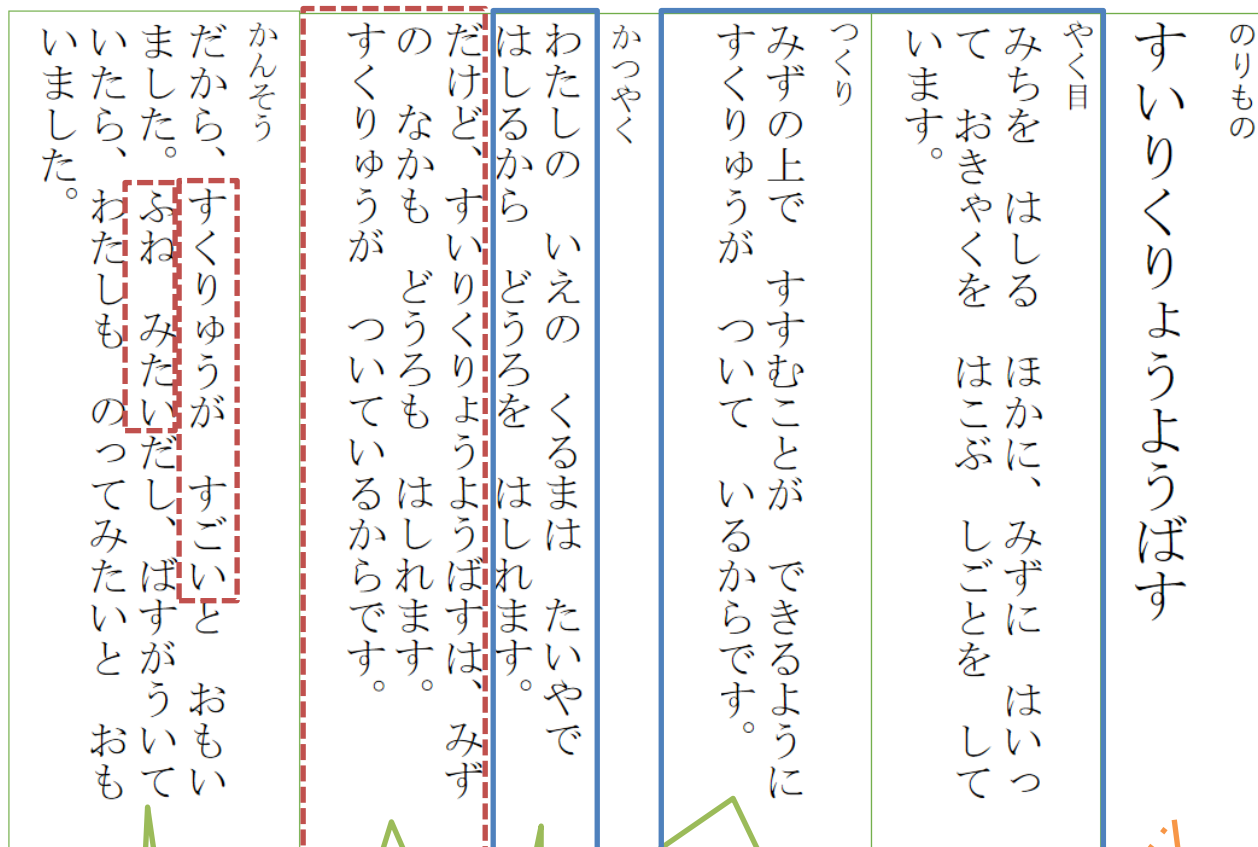
- ②ペア活動として友達の選んだ資料と一緒に読み、話し合う時間を設ける中で、友達の作品の「やく目」と「つくり」に着目し、新たなよさや解釈を伝え合った。友達の助言を手掛かりにすることで、関連付けを行うことができた。

7 評価の実際

(1) 評価の具体

本単元においては、既存の知識や経験をもとに、解釈を深め、感想をもつという「考えの形成」を目的に学習を行った。そのため、ワークシートに以下の3点が書かれている児童を「おおむね満足できる」状況(B)とした。

- ①「役目」と「つくり」を適切に選び出している。
- ②文章の内容と結び付けた既存の知識や経験を想起し、解釈を深めている。
- ③解釈を深めたことをもとに、感想をもっている。



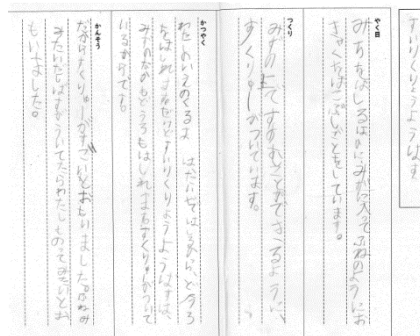
①「役目」と「つくり」を適切に
選び出すことができている。

②既存の知識
との比較による
深まり。

②既存の知識

③解釈したことにより、す
ごいと思う視
点が明確にな
っている。

実際のワークシート



上記に加えて、比較や関連付けを行い、解釈を深める中で、調べた乗り物だけでなく、身近な乗り物のよさにも改めて気付くなど、多角的な視点で考えて感想をもつことができた児童を「十分満足できる」状況（A）とした。

のりもの パトロールカー	かつやく ぼくの いえの 車には、いすが四こあって、てれびも みれます。のみものを おくところや じゅうでんする ところも あります。 だけど、パトロールカーは、車にはない、いろいろなものが あります。たとえば、さいれん、どろぼうが いたときに てにつける てじょう など いろいろなものがあります。	だから、パトロールカーは やくにたちます。だから、だいじです。	かんそう だから、パトロールカーで じこや はんざいが へるので かつこいいです。だから、パトロールカーは さいれん まで かつこいいです。らいとが ひかるから よるでも わかるし、音が きこえて きたら パトロールカーって わかるからです。だから、あの音が ぼくは すきです。パトロールカーの いろも すきです。
------------------------------	---	--	---

児童が気付き、書き加えた乗り物の価値

- ③ ②で述べたパトロールカーの仕組みや価値に基づいて、自分の思いを深めながら感想を述べる述べている。
- ② 自分の家の車とパトロールカーの仕組みの違いを比べる。
(視点の焦点化)
その上で、パトロールカーの価値を述べている。

実際のワークシート

(2) 児童の評価

本単元を終えて、「十分満足できる」状況（A）の児童は 17%、「おおむね満足できる」状況（B）の児童は 75%であった。「努力を要する」状況（C）の児童は、当初 7%で、主に「②文章の内容と結び付けた既有的知識や経験を想起し、解釈を深めることができる。」において、既有的知識や経験と結び付けることに課題があった。これらの児童には、6（2）で述べた手立てを講じることで、「おおむね満足できる」状況（B）に達することができた。

8 成果と課題

(1) 成果

- ・単元を通して、書き写す作業や、自分の考えや思いを書く活動を多様に取り入れ、それを「図鑑」としてまとめることで、児童の書く活動に対する抵抗感がなくなり、すらすらと書ける児童が増加した。また、これまでは「楽しかった。」「うれしかった。」などの情意面を一言でしか表現できなかった児童が、理由や根拠を示したり、自分の経験や生活、既習事項と関連付けたりして、詳しく書くことができるようになった。これにより、国語科だけではなく、他教科においても書いて説明する力が伸びている。
- ・他教科の振り返りにおいても様々な接続詞を使って、文のつながりを意識しながら記述することができるようになった。
- ・社会見学での経験を生かして単元を構想することで、児童が意欲的に取り組むことができるとともに、共通の経験や知識を活用することができ、児童のつまずきに対する手立てとなった。

(2) 課題

①「努力を要する」状況（C）の児童に対する手立て

- 一人で読むことが難しい児童、抜き書きが難しい児童、主述を意識した文を書くことが難しい児童と児童一人一人の実態に応じた手立てが明確でなかった。

②決まった時間の中で書かせ切ることの難しさ

- 本単元の言語活動である「のりものカード」を作成することを通して、複数回、乗り物の「やく目」「つくり」を文章から見付け、文章の内容についての「解釈」及び「感想」を書いてきた。全体として書いて表現する力は向上しているが、学級の人数的にも、児童の実態的にも 1 時間で表現させたい内容の全てを書ききることができない児童に対する支援が十分にできていない。

③解釈したことをもとに、感想を深める難しさ

- 解釈したことと感想が繰り返しになる児童がいる。解釈と感想の違いを理解させきれていなかったことが原因だと考えられる。
- 児童の思考を広げ、新たな視点を獲得しながら解釈を深め、感想をもつことができていない児童（A層）を増やすための手立てが明確でなかった。

(3) 今後に向けて

①「努力を要する」状況（C）の児童に対する手立ての明確化

- 評価のポイントや内容を明確にし、具体化して学習の計画を立てていく。これにより、言語活動を通した児童に付けたい力や資質能力を図る。
- 全体に対する支援と個別に対する支援を具体的に考える。そのために、丁寧な児童実態の把握を図る。

②決まった時間の中で書かせ切ることの難しさ

- 学習の系統性を意識して単元計画を立てることで、書く内容や量を精選していく。これにより、評価の観点もより明確になると考える。
- 音声入力を活用するなど、ICTも効果的に用いながら、実態把握を基にした個別の手立てを具体的にし、的確な支援を行う必要がある。

③解釈したことをもとに、感想を深める難しさ

- 考えを形成し、表現するにあたって、書く観点を明確にして全体で共有する。そのために、

文章の内容や言語活動に応じて、「感想」を「うり」や「セールスポイント」に言い換えるなど、児童が文章の内容に対して思いをもちやすい言葉を用い、共通認識していく。

- 児童の思いをより引き出したり、他者からの視点を得ることで考えを広げたりするなど、目的に応じたペア学習の内容や形態を工夫する必要がある。
- 経験や既有的知識と結び付けることで解釈を深めることができることを価値付けていき、系統性を意識しながら児童の考えの形成を促していきたい。
- 教材に対する児童の解釈を深め、思いや感想を引き出すための手立てや学習計画を児童の発達段階や実態に応じて工夫していく。そのために、今後も言語活動の必然性を意識していきたい。

付録 選書リスト

書名	著者名	出版社名
のりもの写真えほん1 はたらく自動車ずかん	高島 鎮雄 (監修)	成美堂出版
はたらくじどう車 しごととつくり① ブルドーザー・ショベルカー	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車 しごととつくり② しょうぼう車・きゅうきゅう車	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車 しごととつくり③ パトカー・白バイ	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車 しごととつくり④ バス・トラック	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車 しごととつくり⑤ ごみしゅうしゅう車・ゆうびん車	小峰書店編集部	小峰書店
くらべてみよう！はたらくじどう車1 しょうぼう車	市瀬 義雄 (監修・写真)	金の星社
くらべてみよう！はたらくじどう車2 パトロールカー・きゅうきゅう車	市瀬 義雄 (監修・写真)	金の星社
くらべてみよう！はたらくじどう車3 ブルドーザー・パワーショベル	市瀬 義雄 (監修・写真)	金の星社
くらべてみよう！はたらくじどう車4 バス・トラック	市瀬 義雄 (監修・写真)	金の星社
くらべてみよう！はたらくじどう車5 せいそう車・じょせつ車	市瀬 義雄 (監修・写真)	金の星社
はたらくじどう車スーパーずかん③ こうじげんばではたらくじどう車 ブルドーザーパワーショベル	小賀野 実 (監修・写真)	ポプラ社